

2011 年度後期学生授業評価アンケート集計結果に対するコメント —全学共通科目—

共通教育運営委員長 篠原光伸

2011 年度前後期・科目開設部門別集計結果の「全学共通教育」を見ると、「総合的にこの授業を評価できる」の項目が、4.37 とかなり高い数値を示している。この数字は他の開設部門の同項目と比較しても高めである。このひとつの原因は、全学共通教育科目の場合、学生が自分の興味にしたがって自由に選択しているところにある。「この分野の関心と学力が得られた」の項目の高い数値についても、同じことが言えよう。

これに対して、「教員は発言・議論等授業参加を積極的に促した」「予習または復習をよくした」の項目の数値がやや低めである。これは、全学共通教育科目、とりわけ一部の教養科目において履修者数が非常に多くなってしまっていることとの関連が推測できる。大人数の学生を相手にしての一方通行的な講義にならないように、授業形態に工夫を加えることを、全学共通教育科目を運営する共通教育研究センターとして考えていく必要があるかもしれない。

次に、履修者数 17,654 名に対し、回答者数が 7,807 名であり、回答者数の比率が他の開設部門と比較して若干低いのは、登録だけして実際には授業に出ない学生（したがって、成績は[/]となる）が他の開設部門より多いことを示唆しているかも知れない。

最後に、2011 年度前後期・授業形態別集計結果の「体育実技」部門を見ると、いずれの項目でも他の部門より大幅に高い数値を示している。これはひとつには授業形態の特殊性に由来するものであろうが、「教員の授業への熱意を感じた」が 4.83 と「演習・ゼミ」部門の同項目より高いことから見ると、個々の授業での教員の熱意・工夫が感じられる。